Economic Indicators

発表日:2021 年 4 月 7 日(水)

景気動向指数(2021 年 2 月)

～「改善」への基調判断上方修正は見送り～

第一生命経済研究所 調査研究本部
経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴(TEL:03-5221-4528)

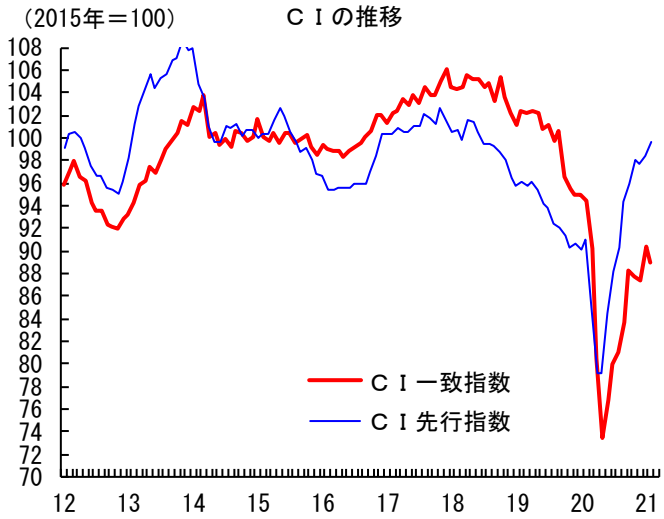
２ヶ月ぶりの低下。回復ペースが鈍化

内閣府から公表された 2021 年２月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差▲1.3 ポイントとなった。１月に前月差＋2.9 ポイントの高い伸びとなっていた反動に加え、半導体不足を背景とした自動車の減産も影響し、２ヶ月ぶりの低下となっている。内訳では、耐久消費財出荷指数や鉱工業生産指数、生産財出荷指数、輸出数量指数など、生産・輸出関連が足を引っ張った。ＣＩ一致指数は 20 年６月以降急回復していたが、直近４ヶ月のうち３ヶ月で前月差低下となるなど、回復ペースにやや陰りがみられる。

基調判断は前月から据え置き

内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は、前月に続いて「上方への局面変化」となった。基調判断が「改善」へと上方修正されるためには「原則として３か月以上連続して、３か月後方移動平均が上昇」かつ「当月の前月差の符号がプラス」との条件を満たす必要がある。２月については、ＣＩ一致指数が 0.1 ポイントでも上昇すれば基調判断の上方修正が実現していたが、実際には前月差低下となったことで、後者の条件を満たさず、基調判断の上方修正は見送られている。

また、３月についても上方修正は見送られる可能性がある。３月分で、ＣＩ一致指数が 0.1 ポイントでも上昇すれば基調判断は「改善」に上方修正されるが、３月の製造工業生産予測指数（経済産業省試算値）で前月比▲1.4%と２ヵ月連続の低下が見込まれていることが懸念材料だ。小売業販売額などではプラスが見込まれる一方、ＣＩ一致指数の採用系列に製造業関連の指標が多いことから、３月も前月差で低下となり、基調判断の上方修正は再び見送られる可能性は高そうだ。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。